

### 更年期障害 症例 3

女性 四九歳 自営業（飲食店）

主訴 右側頭から顔面痛（三年以上）

現症 数年来、耳鳴り（高い音）、めまい、顔のほてり、胸やけ。閉経四四歳。

所見 「緊数」<sub>レ</sub>、「左中注」(+)<sub>レ</sub>、「右天枢」(+)<sub>レ</sub>、「然谷」(+)<sub>レ</sub>、「天牖」(+)<sub>レ</sub>。

治療 「扁桃」<sub>レ</sub>、「自律神経」<sub>レ</sub>、「瘀血」<sub>レ</sub>、「帯脈」<sub>レ</sub>。

経過 三回目（一一日目）頭痛はよい、耳鳴り右側残っている。ふらつきあり。「同前処置」<sub>レ</sub>。  
五回目（八八日目）ガンガンする頭痛がなくなる。耳鳴りだいぶよい、肩こり。「緊数」<sub>レ</sub>、「火穴」(-)<sub>レ</sub>、「扁桃」<sub>レ</sub>、「自律神経」<sub>レ</sub>、「帯脈」<sub>レ</sub>。  
六回目（九九日目）体調はずっとよい。一週間前よりのどのイガイガ、昨日より頭のぼせ、肩こり。「緊数」<sub>レ</sub>、「右天枢」(+)<sub>レ</sub>、「魚際」(+)<sub>レ</sub>、「扁桃」<sub>レ</sub>、「自律神経」<sub>レ</sub>、「肺実」<sub>レ</sub>、「帯脈」<sub>レ</sub>。  
七回目（一〇五日目）のどのイガイガだいぶよい、耳鳴りもずっとよい、右側のぼせあり。「やや緊数」<sub>レ</sub>、「行間」(+)<sub>レ</sub>、「左天枢」(+)<sub>レ</sub>、「左中注」(+)<sub>レ</sub>、「扁桃」<sub>レ</sub>、「自律神経」<sub>レ</sub>、「帯脈」<sub>レ</sub>、「瘀血」<sub>レ</sub>、「肝実処置」<sub>レ</sub>。  
九回目（一四三日目）頭痛、耳鳴りともになし、肩こり。「細緊数」<sub>レ</sub>、「火穴」(-)<sub>レ</sub>、「左天枢」(+)<sub>レ</sub>、「扁桃」<sub>レ</sub>、「自律神経」<sub>レ</sub>、「帯脈」<sub>レ</sub>、「肝実処置」<sub>レ</sub>。  
加療継続中。

考察 この患者は症例一、二の患者とちがい、「緊数」を呈している。この脉状は自律神経失調を意味している。飲食店を深夜まで営業し、神経を酷使するものと思われる。

ここで脉状の「緊」について掘り下げてみる。

「緊の脉は、しばしば縄を切するがごときかたちす」。(『脉経』)

「動転常なし。革線を結ぶがごとし。是れを候うに、指にあたる事つよく、急にして少しはやし。縄を引きて按すがごとし」。(『脉法手引草』)

「脉の打ち方が緊張していて、力強く、指には燃った綱のようにぴんと張った感じがある」。(『中国漢方医語辞典』)

一様に緊張の強い脉状を示唆している。一般的にこの脉は、疼痛を意味するといわれているが、もう一つ別の意味がある。

「交感神経緊張の強い脉状と解したらよいであろう。「緊」は種々様々な症候を現わす。自律神経失調による症候群がそれである……」。(『鍼灸臨床新治療法の探究』)

これは、父の長年の脉状一筋によって導き出された経験的認識の末の結論である。

この患者の「緊数」の脉状はあまり大きく変化しなかった。職場環境がこのようにさせていたのだろうし、「職業が第二の性格をつくる」といわれるように、それが彼女の性分の中に投影されていったのだろう。

以前「強迫神経症」の症例を発表した時もやはり「緊数」の脉状を呈しており、「性格的な「緊数」はあまり変化しないのだろう」と書いたが、彼女にもそれがいえると思う。

患者さんと接する中で、コミュニケーションを密にもつことは大切である。世間話で患者の生活や職場、あるいは家庭環境、人間関係をそれとなく尋ねていくと、その患者が丸ごとみえてくる。そして話すことによって、また話を聞くことによって、患者さんの心は開いてくるし、リラックスしてくる。このリラックスさせることが治療になってくる。

私は治療方針を立てたら、できるだけ患者さんと話をするようにしている。そしてそれが大きな治療効果を生むと信じている。

今回の治癒例というより有効例でしたので、多少、歯切れがよくなかったと思います。更年期障害は総合病であり、長期の加療を要します。患者も術者も根気が必要になってきますが、有効な治療の積み重ねが治癒に繋がっていくものと信じております。